

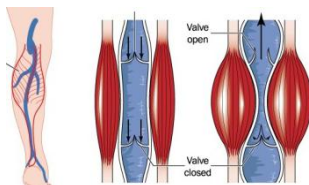
運動療法のアーサイト



アーサイトとは、アートとサイエンスの造語。運動療法にはサイエンスが欠かせません。でも、サイエンスだけでは患者ココロは動かない。そこで、運動療法をアートで見える化！



糖尿病運動療法に“Fascia”を考慮する？ (Fasciaって筋膜だよね…)



皆様お久しぶりです。いつもアーサイトにご参加いただきありがとうございます。アーサイトは今後もオンラインで開催を継続する予定であります。

さて今回は、『糖尿病運動療法で患者さんのFasciaの状態を考慮していますか？』ということテーマにお話したいと思っております。

Fascialは狭義では筋膜とされておりますが、運動療法を行っている際に、糖尿病患者さんの筋肉って動かしづらくない？と感じることはありませんか？原因は多々考えられますが、筋膜の動きづらさも原因の一つと言われております。まだまだ臨床データが少なくこれからの研究成果が待たれる分野ではありますが、臨床でFascialに考慮した運動療法を行ってみたらどうなるか？実践を踏まえてお話出来ればと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。

オンライン開催日時 2024年3月15日(金) 19:30～20:30

演者 東京医大八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科

理学療法士 健康運動療法士 CDJ 天川淑宏

* 下記URLまたはORコードより、Zoomミーティングに事前登録して下さい。

https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZUpduyqrz4sGNMLNGc7F5YO7nSvKRHJM_mi



- ①事前登録にはZoomのダウンロードとサインイン(ご自身のID(メールアドレス)、パスコード(パスワード)でのログイン)が必要です。(詳細はZoom HP ご参照)
- ②事前登録後に登録されたメールアドレスに確認メールが自動配信されますので、ご確認下さい。当日のご参加時に必要な登録者専用のURLが配信されます。
- ③当日のミーティング参加時にもご自身のZoomパスコード(パスワード)が必要です。

【主催・問合せ先】 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科
メール: dmnaika@tokyo-med.ac.jp

【共催】 東京医科大学八王子医療センター 医療連携室

糖尿病患者の身体的特徴

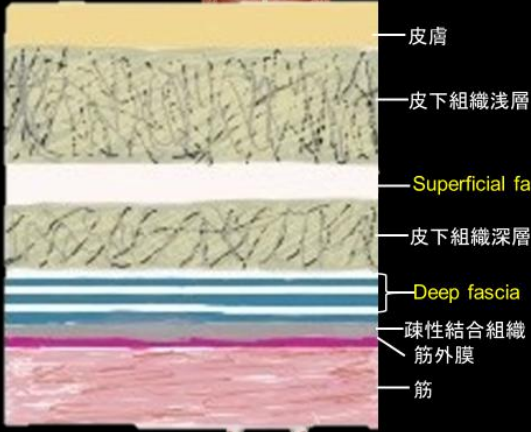
「ネットワーク機能を有する『目視可能な線維構成体』」
 macroscopic anatomical structures forming of fibrils with the function of fascial network system

fascia 線維性構成体

髄膜、胸膜膜、脂肪、筋膜、靭帯、腱などに分類
 動きとの連携からみると圧倒的に多いのが

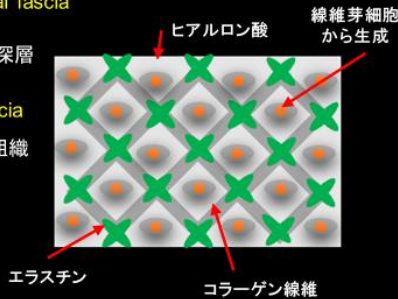
一般社団法人 日本整形内科学研究会

皮下組織とfascia

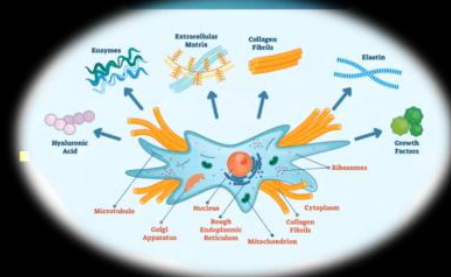


資料)株式会社ゼニタ作成構造図

fascia構成成分



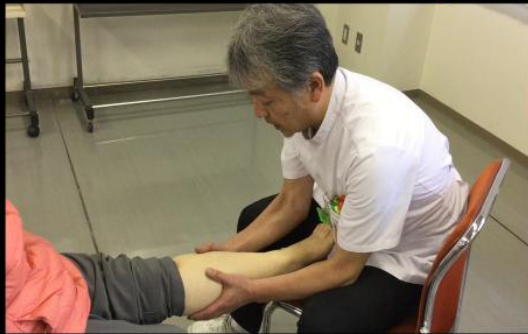
線維芽細胞が分泌する物質



designua@123RF.com

Slide produced by T. Amagawa

MyoFasciaリリース



膝裏から踵の方向へ筋膜をリリース



患者は、ゆっくり足関節の背屈と底屈を行う



解結リリース(手技)
 と
 セルフストレッチ(自ら実践)